

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会（授業研究会）を実施しました。

新たな学校教育準備プログラム推進事業
通信 No.2

令和元年 7月29日
教育指導課教育課程係

『つなげて考え、学びを深める』

東京学芸大学教育学部 准教授 高橋 純 氏



7月3日(水)に、青葉区の拠点校として「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の実践に取り組んでいる仙台市立北六番丁小学校（伊藤敏子 校長先生）において、今年度1回目の研修会が行われました。拠点校としては2年目の取組であり、昨年度に引き続き東京学芸大学教育学部准教授の高橋純氏をお招きし、研究主題「つなげて考え、学びを深める児童の育成～学習過程の質的改善を通して～」に基づいた授業公開と、その授業の講評を含めな

がら、「つなげて考え、学びを深める」というテーマのもと、高橋准教授から講話がありました。仙台市教育センター舟岡勇人指導主事、仙台市立袋原小学校相澤文典校長先生他、市内小中学校・公所関係から約50名の皆さんが参加し、高橋先生からは、教育改革の現状を踏まえ、今回の公開授業への助言も含めながら様々な視点から新学習指導要領の目指す学びについてお話しをいただきました。講話の概要は次のとおりです。

- 6年1組・社会科
「今に伝わる室町文化」
授業者：長谷川壮太 教諭
- 6年2組・国語科
「新聞の投書を読み比べよう」
授業者：小泉郁恵 教諭



生涯にわたって能動的に学び続ける児童生徒の育成

「用語を覚える（浅いわかり）」から「自ら考えて解決する（深いわかり）」へという見通しのもと、児童生徒が自ら学び続けられるようにするためには、「黒板を使って、知識の整理・分析をする＝教師」という従来型の授業スタイルでは、達成が難しい。「用語を覚える」とことと「自ら考えて解決する」ことを結び付ける取組が必要である。例えば、未知の事柄に対応できたり、考えられたりできる人というのは、これまでの自分のあらゆる経験を「総動員」することで、その事柄を類推するものである。汎用的な見方・考え方が、生涯にわたって身に付いている表れである。現在「構造的な板書」が、もてはやされているが、最終的にはそのようなものを自分のノートに書けるようにしなければならない。お手本として（教師が）「構造的な板書」を見せるのはいいが、どうやってフェードアウトし、「学び方」について意図的・計画的な学習指導を通して、児童生徒が自ら考えるようにしていくのが課題である。

イメージの共有（主に学力や時間幅について）

同じ事柄と考えるものでも既知知識との関連付けが違う。「知識」という「点」をつないで学びを考え、ていく。言語活動や思考活動等でたくさんの点と点でつないでいく。はじめは点線だが、繰り返し行うことで線が太くなり、その知識を構造化することで、ある教科で得た知識が他教科等で生かせるようになってくる。「知識のネットワーク化」まで指導する必要がある。

（当たり前のように学習に向かう姿が前提となるが、）「ノートを取る」「発表をする」といった学習スキルは、短期間での繰り返しによって高まる。それに対して思考力は、複合的で総合的な学習活動を繰り返しながら、数か月間を必要とする。感覚的に例えれば、1学期を振り返った時に、「以前の自分よりも今の自分のほうが向上した」というような感じである。つまり、「スキル」を身に付けることも「思考力」を育むことも、質的に違うので時間幅は異なるが、「繰り返し」が必要であり、「型」「パターン」を身に付けさせることが有効となる。また、思考力を高めるためには「発問」が大事だが、一連の学習過程のつながりの中にあるものという時間幅の認識を持つ必要がある。

個々の学習活動をしっかりと行い、「見方・考え方」で思考をつなぐことを繰り返し行うことで学びが深まるのである。

『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点』

國學院大學 人間開発学部 初等教育科教授 田村 学 氏

7月11日(木)に、宮城野区の拠点校として実践に取り組んでいる仙台市立榴岡小学校(猪股亮文 校長先生)において、今年度1回目の公開研究会が行われました。拠点校としては2年目の取組で、昨年度に引き続き國學院大學人間開発学部教授の田村学氏をお招きしました。研修会では、今年度の重点的に育成を目指す資質・能力『社会に開かれた教育課程』を通して、子供が実社会や実生活を足場にしながら、実社会や実生活に生きる『主体的に考え、表現、行動する力』を培うに基づいた授業公開と、その授業の講評を含めながら講話がありました。



- 2年5組・国語科
「ふるしきは、どんなぬの」
授業者： 宮内大輔 教諭
- 6年4組・社会科
「江戸幕府と政治の安定」
授業者： 伊藤賢司 教諭

研修会には、市内小中学校・公所関係から約60名の皆さんが参加し、授業公開は2コマ設定され、日頃の学びの成果を多くの先生方の前で披露することができました。いずれの授業とも参観する先生方が教室からあふれるほどで、会場校の配慮から、隣の教室をサテライト会場として開放し、ビデオカメラで映し出した

授業の様子を参観することができました。授業公開の後、体育館にてグループ協議及び研究授業の講評を含めた田村教授の講話が行われました。



グループ協議では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」という視点から授業の振り返りを行い、単元を実生活や実体験と関連付けることで意欲の高まりが見られ主体的な学びにつながっていたことや発問の工夫・提示資料等の精選によって、考えの深まりが見られたことが成果として挙げられました。一方、対話的な学びをより推進するために、児童同士の意見の交流場面を意図的に設定し、教師が意見の橋渡しをする必要があるなどの意見も出されました。最後に講話がありました。概要は以下のとおりです。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「暗記再生型」授業から「思考発信型」の授業への改善

⇒「思考発信型」授業は「思考の活性化」を促す

授業改善の3つのポイント

- 1 (導入) ○課題を設定する (問題状況に対する違和感, 理想状況に対する憧れ など)
○見通しを持つ (学習の過程への見通し, 学習の到達点への見通し など)
- 2 (展開) ○音声言語で学び合う (発話者数, 発話回数, 発話量, ⇒発話内容, 発話の関連)
 - ・子供の思考に寄り添う (自然に)
 - ・情報の処理を助ける (意図的に)
- 3 (終末) ○文字言語で振り返る (長く書く)
 - ・事実の確認
 - ・関連性や一般化の生成
 - ・自己変容への気付き など

学習活動・発問・板書

状況を整える (意欲・内容・方法+<文章を書くのに適した静かな>環境)

2つの小学校とも秋から冬に掛けて今年度2回目の研修会を予定しており、今回の研修会で得た成果を基に、さらに授業改善に取り組むこととなります。目前に控えた次期学習指導要領の全面実施に向け、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」への貴重な取組が推進されます。より多くの先生方の参加をいただき、共に学んでいきたいと思っております。今後の研修会の日程につきましては、改めて御連絡します。